重点１　毎日の授業の充実　／　５Ｃ　体験活動（職場体験学習実施状況）

ね　ら　い

自らの意思と責任で，進路を選択し，自分らしい生き方を実現していこうとする力を育成するため，各学校ではさまざまな進路指導を行っています。その中でも，中学校では，総合的な学習の時間を中心に，地域にある事業所等に協力していただき，職場体験学習を行っています。

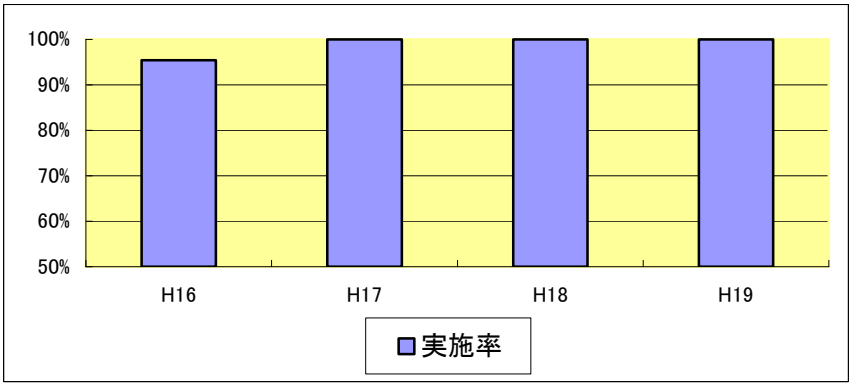
生徒にとっては，学校だけでは学ぶことができない，働くことの意義や役割，喜びや苦労などを実感できると同時に，事業所や地域の人々にとっても，地域の子どもたちを知るという意味でもたいへん意義深いものとなっています。

現　　状

平成１９年度実施状況

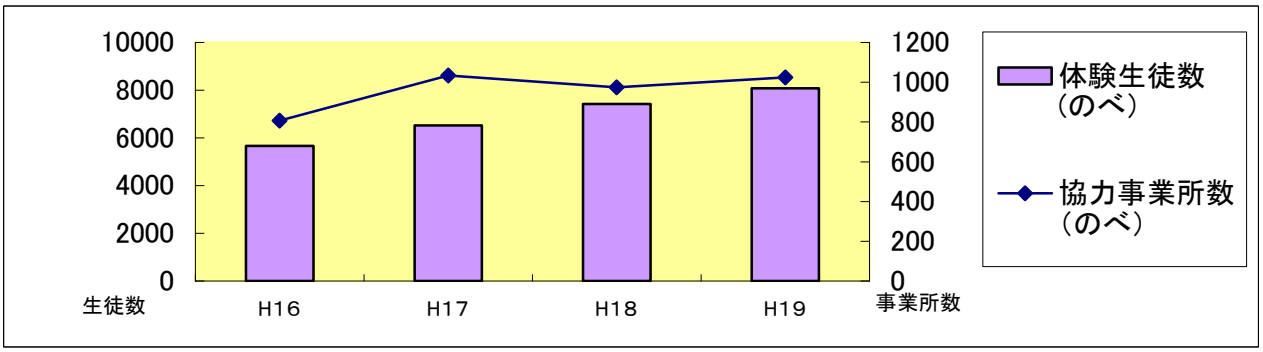
- ○　実施校数　22 校（市内全校で実施）
- ○　体験生徒数　のべ8，０７７人
- ○　協力事業所　のべ1，０２５事業所

○　職場体験学習実施状況（実施校の割合）

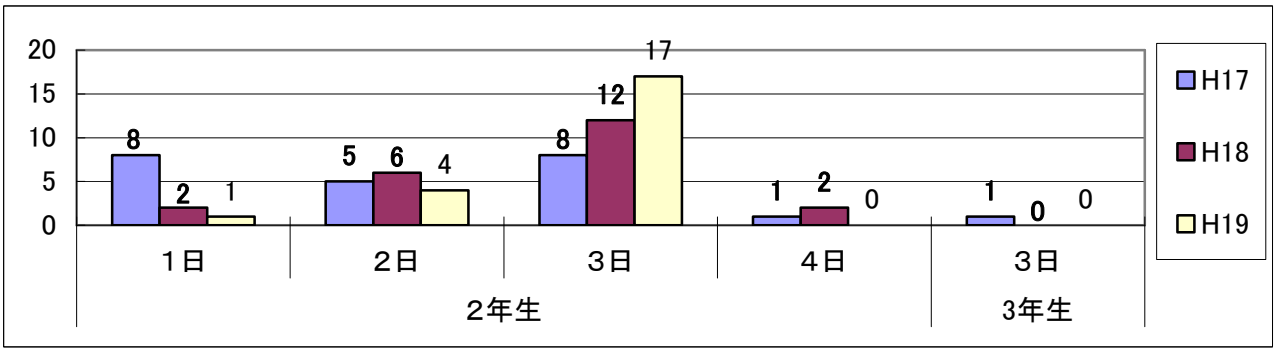


※ H17 年度は，１校が２･３年生の複数学年で実施

○　市内実施校の体験生徒数と協力事業所の推移



○　実施校における期間別実施状況（校数）



○　実施校の現状から

- 本年度も，昨年度に引き続き市内全２２校で実施されました。市内では，２年生での実施が定着してきました。
- 体験学習期間３日間の実施が１７校，２日間以下の実施が５校となり，年々，実施期間も拡大し，取組も充実したものとなってきています。
- 体験学習後の調査を行った学校からの報告をまとめてみると，「受け入れ先事業所や地域の人たちとふれあうことができた」「自分の取り組む活動について，家庭で話し合った」と回答する生徒の割合が高く，地域や家庭でのふれあいのよい機会となっていることがうかがえます。また，「楽しい活動となった」「進路や将来について考える機会となった」と回答する生徒の割合も高く，生徒にとって有意義な活動となっていることがうかがえます。
- 同じ事業所への調査では，「中学生への関心が高まった」「生徒たちの取組は積極的だった」「働くことの厳しさや大変さにふれさせることができた」という回答の割合が高く，受け入れ先事業所の方々が親身になって生徒を指導していただいた様子がうかがえます。
- 社会活動をとおしての「心の教育」が大切にされる中で，中学生を地域社会の人々が直接指導するこの学習はより重要なものになっています。職場体験が定着してきた地域においては，「地域の子どもは地域で守り育てる」という機運が高まりつつあります。
- 実施校の中では，望ましい職業観を高めるため，地域や企業の方に講師を依頼し，仕事に対する考えや経験を語ってもらうことで，「働くことの意義」や「社会人としての資質・マナー」を生徒に意識付ける取組等を事前に行う学校が増えてきています。

　また，事後学習においても，お世話になった感謝の気持ちや体験して学んだことなどを事業所に伝えるといった交流活動が行われています。

課　題（今後の方向）

○　職場体験学習は受け入れ事業所や地域の理解と協力がなければ成り立ちません。そのためにも，学校としての活動のねらいを受け入れ先事業所にしっかりと伝えることや，参加する生徒の動機付けやマナー等の事前指導をしっかりと行うことが大切になってきます。また，直接人間的なふれあいができる絶好の機会でもあり，生涯学習の見地からもそれぞれの地域で職場体験学習の意義を理解していただき，地域の教育力を高めていくことが重要です。

○　職場体験学習を直接自分の将来や進路に生かしていくことは難しいですが，貴重な体験の機会であり，事後指導はもちろん，学活や道徳，総合的な学習の時間なども含めて，生徒一人一人に自分の生き方を継続的に考える機会をもたせていくことが大切になってきます。

○　現在，ニートと呼ばれる人たちが増加し，社会問題ともなっています。キャリア教育の視点からこの職場体験が，生徒の感性を磨き，役に立つ喜びや労働の価値を見出し，豊かな人間性を培っていくことができるよい機会となるように指導していく必要があります。

○　望ましい勤労観・職業観を育成し，職業的な自立や，社会人としての資質を養うといったキャリア教育の目標を達成するためには，職場体験学習だけでなく，すべての教育活動のなかにキャリア教育の視点をどのように位置付けるかについての検討が必要になってきています。また，小学校においても，総合的な学習の時間，道徳，特別活動などを通じて組織的・系統的なキャリア教育を推進する必要があります。